



総括質疑とは

予算等審査特別委員会の全体会議において、会派ごとの持ち時間制で行う質疑のことです。

今定例会では、34人の議員が行いました。



答

各運営団体の特色を十分に
かし、安定した活動を継続す
るためには、自主財源の確保な
ど自立した運営が重要と考えて

問

子どもやその家庭を支援する
ため、地域子ども支援事業や、
ショートステイ等の事業を行う。

子ども食堂は、食事を提供
するだけではなく、居場所づ
くりなど地域で重要な役割を担
っているため、各地域で支え合
い自立した運営ができる仕組み
の構築が必要ではないか。

子育て家庭への支援の充実を

答

利用登録の電子申請を導入
し、手続きの負担を軽減した
ほか、24時間登録が可能になっ
た。より速やかに支援を提供で
きるよう今後も取り組んでいく。

問

いる。引き続き、優れた取り組
みの紹介や、安定的な運営に関
する研修を実施していく。

一時的に保護者が子どもの
面倒を見ることができない時、
宿泊で預かるショートステイな
どの申請について、手続きの負
担軽減など、さらなる利便性の
向上に取り組めないか。



子どもの興味・関心に応じた探究
活動を保育所等で実践

問

7年度から保育所等で開始
する、とうきょうすくわくプ
ログラムの事業概要を聞きたい。

子どもの自己肯定感や意欲等
の向上を図るためのプログラム
を保育所等で実施する。

とうきょうすくわく プログラムの取り組みは

答

興味・関心に応じた探究活
動を実践することで、子ども
たちの自己肯定感や意欲などの
非認知能力を伸ばすことができ
る。また、新しい教育方法を取
り入れることで、保育者自身の
スキルが高まり、保育所等の幼
児教育・保育の質の向上にもつ
ながると考えている。

問

乳幼児期は、成長と発達の
ための重要な時期と考えるが、
この事業で期待される効果は。

答

保育所等が環境や強みをい
かし、子どもの興味・関心に
応じた探究活動を実践すること
で、幼児教育・保育の充実を図
るものである。

発達障害の早期発見・支援等の
ため、5歳児健診の準備会設置や、
発達障害児支援室の運営を行う。

発達相談・発達支援の今後は

答

5歳児健診は、個々の発達特性
を早期に把握し、子育て相談のニ
ーズ等を踏まえながら、子どもとそ
の家庭に必要な支援につなげること
を目的としている。7年度は、医療
や福祉等、専門的知見を持つ関係者
とともに、健診の実施や健診後の支
援等の体制について検討していく。

問

発達に偏りや遅れのある子ども
とその家族に、相談や療育支援等
を行う発達障害児支援室「からふる」
の今後の方向性について聞きたい。

答

「からふる」の療育支援では、
未就学児の利用が増えており、発
達が気になる初期段階でのニーズの
増加と分析している。一人ひとりの
成長に合わせたきめ細かい療育に向
け、今後さらに支援を充実させたい
と考えている。



発達障害等を早期に発見し、必要な支援
につなげる5歳児健診の実施に向けて